

## 環渤海地域の観光産業クラスター構築と地域整合に関する研究

——京津冀地域の観光産業協力発展へのアプローチ——

李 剛<sup>\*1</sup>・汪 爽<sup>\*2</sup>・王 碧含<sup>\*3</sup>

### 論文要旨：

本論は現在の環渤海地域における合理的な空間構造、効率的な組織システムがまだできていないことに焦点を当て、観光産業クラスター概念、特徴、整合及び開発状況を系統的に踏まえて、環境優位、社会的分業、クラスター地域性と次元性という三つの面から環渤海地域の観光産業クラスターの形成条件を分析したうえ、環渤海地域の政策制度、観光要因、市場、地域空間の整合と協力のモデルを打ち出し、環渤海地域の観光整合と協調を推し進めるようとするものである。

また、本論では産業クラスター理論に基づき、先行文献、先行研究及びSWOTの研究方法を用いて、環渤海地域、特に京津冀地域の観光産業の発展現状を踏まえて、相互の協力と提携の可能性と必要性を検討したうえ、中国の観光産業クラスターモデルで環渤海地域における観光産業協力発展を提案しようとする。

キーワード：環渤海地域・京津冀地域・観光産業クラスター・地域整合・協力発展

\*1 李 剛（1964年～）、男性、中国天津市出身、天津財経大学商学院観光学部、准教授、修士課程の指導教官。博士・修士（日本大阪商業大学大学院地域経済政策学）、修士（大阪外国語大学大学院言語文化学）。主な研究分野：観光地域経済政策学、観光心理学、言語文化学。1992年から2007年まで日本在住歴15年。2008年5月より大阪観光大学観光学研究所客員研究員。

\*2 汪 爽（1980年～）、女性、中国湖北省武漢市出身、天津財経大学商学院観光学部、専任講師、修士（フランス BEM Bordeaux Management School France International Business MACI）。主な研究分野：観光企業管理学、観光経済学など。

\*3 王碧含（1978年～）、女性、中国天津市出身、天津財経大学商学院観光学部、専任講師、修士（南開大学大学院管理学）。主な研究分野：観光企業管理学、観光経済学など。

備考：本論文は2010年度中国国家教育部人文社会科学研究規劃基金プロジェクト「北東アジア地域観光一体化協力メカニズムに関する研究—理論の構築とシステムの設計」（許可番号：10 YJA 790087）、2008年度中国国家教育部人文社会科学研究規劃基金プロジェクト「観光業の持続可能な開発—動的環境容量に基づく分析」（許可番号：08 JA 630055）、2008年度天津市教育委員会天津市大学教育機関人文社会科学研究プロジェクト「環渤海地域観光経済協調発展研究—京津冀地域（北京市・天津市・河北省）観光業競合モデルを例に」（許可番号：20082419）、2010年度天津市教育委員会天津市大学教育機関人文社会科学研究プロジェクト「濱海観光目的地イメージ修正：—致性と非一致性のテスト」（許可番号：20102131）、2011年度天津財経大学科学研究發展基金プロジェクト「インターネットフィクションツーリズムの感知価値評価研究」（許可番号 Q 1110）の研究成果の一部である。

# Study on Tourism Industrial Clusters and Regional Integration in Bohai Rim Region

—Based on Cooperation and Development of Tourism Industry  
in the Beijing, Tianjin and Hebei Region—

LI Gang, WANG-Shuang, WANG Bi-han

(Tourism Management Department, Tianjin University of finance and economics, Tianjin 300222, China)

**Abstract :** The paper focus on unreasonable space structure and ineffective organizational system presenting in Bohai rim region. And It analyses the formation conditions of tourism industrial clusters in this region from three aspects : environmental advantages, social division of labor, regionality and hierarchy of clusters, based on the systematical review of the concept, features, integration and development of the situation of tourism industrial cluster. It also build models for cooperation and integration of Bohai rim region in term of regional policy, tourism elements, market, regional space, in order to advance integration and coordination of tourism development in the region.

In addition, based on industrial cluster theory, this paper makes use of previous research results and literature and adopts SWOT methodology to explore the possibility and necessity of mutual cooperation according to present situation of regional tourism industry development in Bohai rim region, especially in Beijing, Tianjin and Hebei region. It puts forward some suggestions of cooperation in the region's tourism industry development from the view of China's tourism industrial cluster model.

**Key words :** Bohai Rim region, Beijing and Tianjin and Hebei region, Tourism industrial clusters, Regional integration, Cooperation and development

## 1. はじめに

産業クラスターを持つ地域では、その成長は遙かにその他の地域を上回っている。例えば、米国でのハリウッドの娯楽産業、ウォール街の金融産業、シリコンバレーの IT 産業、日本での温泉レジャーリゾート産業、韓国での「韓流」文化産業及び中国における珠江デルタ、長江デルタ、環渤海地域の家電産業などは産業クラスターによって地域の成長が促進される典型的な代表である。京津冀地域の観光産業の発展のなか、各地域の優勢を十分に生かし、三地域の協力提携を強化し、三地域の観光産業の効果的な連携を実現することは、京津冀地域の観光産業の協力発展を促進するのに重要な戦略的な、現実的な意味を持っている。

## 2. 産業クラスターと観光産業クラスター

### 2.1 産業クラスターについて<sup>1</sup>

産業クラスター (Industrial clusters) とは、情報通信、バイオ、医薬、環境といった特定分野の企業、大学・研究機関、法律事務所、会計事務所などのビジネスを支援する専門組織、公的機関、ベンチャー企業を育てるインキュベーター組織などが一定地域に集積した状態をさす。本来、クラスターとは葡萄の房を意味するが、ここでは限られた地域の産官学が互いに競争、協力しながら技術革新 (イノベーション) を重ね、新たな商品やサービスを生み出すこと

で産業育成と地域振興を目ざす概念であり、産地企業集積と言われることもある。

米国ハーバード大学ビジネススクール教授のマイケル・E・ポート（Michael Eugene Porter, 1947年-）は、『国の競争優位』（The Competitive Advantage of Nations, 1990）という著作の中で初めて、産業クラスター（Industrial Cluster）の構想を提唱し、国内で特色ある産業集積地が数多く誕生することが競争原理を通じて国家の産業競争力の向上につながるという競争戦略論を主張した。情報通信産業が集積したアメリカのシリコンバレーが代表例で、同国のオースチン（情報通信）、イギリスのケンブリッジ（バイオ）、ドイツのミュンヘン（医薬バイオ）、フィンランドのオウル（バイオ、情報通信）などが知られている。日本では経済産業省の主導のもと、全国で40か所以上の産業クラスター計画が進んでおり、愛媛県今治市の造船業などを中心とした「海事クラスター」など成果をあげている地域もある。

中国国内における研究者の中では、劉尚華氏（2007）は、「産業クラスターは類似または関係産業が同じ地域において集積、集約し、互いの依存度がますます大きくなり、一種または多種の核心技術産業を引力とし、次第に関係産業を取り入れ、組み合わせて発展させる」と述べた<sup>2</sup>。一方、凌嵩氏（2004）は、「産業クラスターは、独立自主且つ依存しあう、專業分業と資源補完という現象を持って、長期的な、非特定契約の企業がある地域範囲内における集まりである」と主張した<sup>3</sup>。

本論は先行文献<sup>4</sup>を参考にしたうえで、「産業クラスターとは、ある地域または領域内において相関関係にある企業、産業及び機構がある特定の地域内に集まって、業種分業、業種別の資源補完、技術を共に享受することを通じて産業全体の競争力を向上させる現象と過程である」と定義してみた。

## 2.2 観光産業クラスターについて

観光産業クラスターについては、いくつかの先行研究が挙げられる。その中、鄧永氏、俞曦氏、呉必虎氏（2004）は、「観光産業集積とは、観光核心吸引物を指し、観光企業及び関係企業の間には緊密な経済関係があり、ある地域空間に集まって協力発展をすることである」と述べた<sup>5</sup>。一方、尹貽梅氏、陸玉麟氏、劉志高氏（2004）は、観光産業クラスターを、「ある地域空間に集まった観光核心吸引物、観光企業及び関係企業が共同の目標のため、緊密な関係を結んで、協力し合って競争力を向上させる」と定義してみた<sup>6</sup>。

上述した産業クラスターの概念と観光産業の特徴に基づいて、本論では、観光産業クラスターを、「ある地域空間内において、観光核心吸引物をもとに、飲食・宿泊・交通・遊覧・買物・娯楽という観光の六つの要素に関わる観光産業の企業と関係企業、機構は観光目的地内において大量的に集まって集客率の高い経済群を生むと同時に、競争と協力関係のある観光企業及び関係企業の間には緊密な経済関係があり、ある地域空間内に集まって地域の活性化を促進する」と定義してみたい。

観光産業の生産過程の全体性と協調性、産業範囲の広さ、産業構造の次元性、産業関係の関連性はクラスターの形成、発展、存在の客観性と必然性を備えている<sup>7</sup>。このために、観光産業クラスターは観光要因、関連企業及び補助企業、関係機構、観光資源、地域条件ともに優れた観光目的地を取り巻く空間地域集積体であり、観光産業のハイレベル段階の産物と、経済のグローバル化とクラスター化の発展に適応する必然の動向でもある。

一方、資源賦与の視点から見れば、観光産業クラスターは効果的な方法によって、ある地域

の観光産業要因が有効的に結びつけられて、最も競争力の高い経済活動の資源配置が形成される。他方、産業チェーンの視点から言えば、最も競争力、潜在力のある観光企業をチェーンコアとし、商品、技術、資本などを橋渡しとし、パッケージまたは小売の形で観光商品を、間接的または直接的に観光者に販売することによって、集客地と目的地の間の観光と旅行が実現可能となり、旅行代理店、ホテル、レストラン、観光スポット、観光土産売店などの業者間のチェーン関係が織り成される<sup>8</sup>。また、経済システムの視点からすれば、観光産業クラスターは観光産業と産業クラスターの理念とメカニズムを融合し、合理的な利益配分システムをもとに、核心観光産業を支えに、多次元、多構造の観光経済活動地域システムと観光企業戦略同盟をなして、鮮明的な産業集積優位と放射的な効果を作り出す<sup>9</sup>。

### 3. 観光産業クラスターの構成、特徴及び優位

#### 3.1 観光産業クラスターの構成

本論では、各業界と観光産業との関係の度合いを踏まえて、観光産業クラスターを、下記の三つの部分に分けてみた。

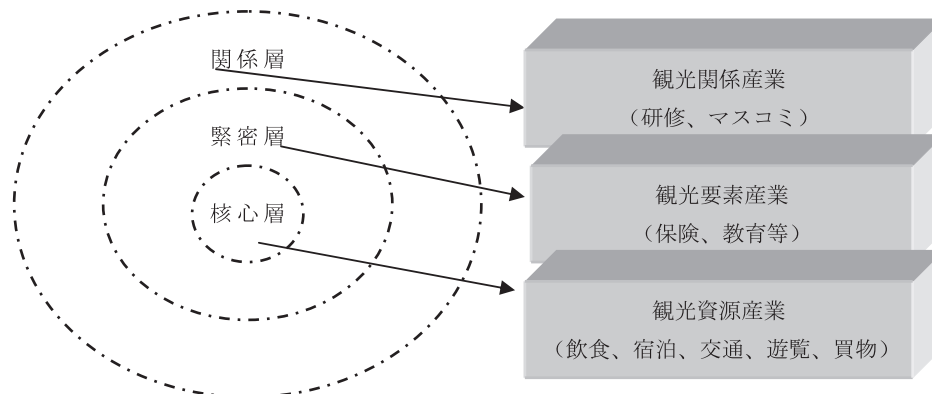
第一層は核心層で、観光産業群における最も基礎的な部分である。飲食、宿泊、交通、観光、買物、娯楽など観光活動のすべてに関わっている。観光資源は観光業が頼りにして発展していく物質的な基礎である。観光資源産業が観光資源の開発に携わって、集積地域内では観光客体になるようにする。観光対象は観光客を誘致できる観光吸引物である。

第二層は緊密層であり、観光産業の発展保障の部分でもある。その中には、農業、工業、郵政情報業、保険業、文化芸術業、教育業、医療保険業などが含まれる。観光要素は観光客に交通機関、飲食、宿泊、観光、買物、娯楽などを提供する観光企業、即ち観光要素産業を生み、旅行社、ホテル、レジャー娯楽施設などが含まれている。

第三層は関係層である。観光産業クラスターの外部にあるにも関わらず、観光産業の発展に大きく影響している。観光要素産業の外部では、第三次元の観光関係産業が観光産業に補足的なサービスを提供している。その中には、造園緑化、研修機構、金融、電信、公共事業、マスコミなどが含まれる。

観光産業の特徴は観光産業クラスターが観光資源産業、観光要素産業、観光関連産業からなるとされている<sup>10</sup>。三つの関係は観光産業クラスターの中にある関係と地位が下記の図1のとおりである。

図1 観光産業クラスター構成図



出典：筆者作成。

### 3.2 観光産業クラスターの特徴

産業チェーンの条件<sup>11</sup>。観光客のニーズに応えるためには、観光資源という核心層と、旅行社、宿泊、飲食、娯楽、買物などの要素供給層のほかに、より多くの観光企業によって共同で完成させる必要がある。

経済の外部性。各業者、部門が互いに依存しあうため、ある企業の良質なサービスによって観光客を惹きつけ、その他の企業にも経済的効果をもたらす。よって、集積のメンバーが多ければ多いほど、集客市場の制御力が強くなる<sup>12</sup>。

市場販売ルートの直接性。観光商品の生産と消費の統一性で、産業チェーンの中にある各業者が直接に市場ルートと連結できる。

集積産業の文化理念の創造性。観光産業クラスターの文化はその他の観光産業クラスター競争の激化の長期化による集客業に対するダメージは大きく、そのため、観光産業クラスターカルチャが創造し直され、内部のすべての企業の経営管理理念と文化価値内容を導き、すべての産業クラスターの競争力を向上すべきである<sup>13</sup>。

### 3.3 観光産業クラスターの優位

クラスターモデル形成の優位性。観光産業の商品とサービスが生産技術において垂直分離の特徴を持っており、産業内では観光客への飲食、宿泊、交通、観光、買物、娯楽の提供をめぐってできた企業間が自然と職種分業になり、長い価値チェーンになる。そのため、その他の産業クラスターに比べて、観光産業クラスターモデルの形成過程は優位性に恵まれている。

互いに補い合った収益の獲得。クラスター内におけるメンバーの間に互いに依存し、協調し、協力して得た結果は各部分の簡単な合計より遥かに大きいものとされる。例えば、一回の観光質の良し悪しが基本吸引物の優劣に関わるだけでなく、補充的な企業の質に頼る。

市場情報の優位。観光産業クラスター内部においては、各企業が市場ルートの直接性を持っているため、その他の産業クラスターに比べてより十分な市場資源共有機会があり、情報の伝播速度がより速く、より正しく、必要なコストもより低い<sup>14</sup>。

#### 4. 観光産業クラスターの発展モデル

本論では先行研究を参考にしうえ、市場化水準と政府関与の度合いの違いによって、観光産業クラスターモデルを、主に政府支援型、即ち主に政府の支援によって観光産業の成長と進展が完成され、観光産業クラスターの発生が上から下へと、国と地方政府の関与と救援政策を通じて促されていることと、もう一つ市場主導型、即ち観光産業クラスターは観光企業が観光産業クラスターの利益の追求を通じて自発的に形成され、観光産業クラスターの発生は下から上へと考えられる。

##### 4.1 環渤海地域観光整合開発と協力現状

中国における異なる次元、規模の地域観光協力と集積発展のトレンドは日増しに明らかになりつつある。経済のグローバリゼーションと地域経済一体化のトレンドに応じ、都市群の開発と相まって、観光産業はすでに環渤海地域において融合が最も早く実用化段階に入った分野になった。1985年9月環渤海における関係都市では地理的範囲が北京市、天津市、河北省、遼東半島、山東半島に及ぶ地域観光協力を初めて打ち出した。2004年から今日までに、環渤海地域における各省、市では、相次いで「京津冀観光協力共識」、「環渤海湾岸都市観光協力」、「北方環渤海11都市観光地域協力枠組み協議」ができ、共同で環渤海地域の観光市場を開放することが確定された。しかし、現在、環渤海観光総合体は合理でない空間構造、完備でない組織メカニズムなど数多くの問題がまだ存在している。特に北京、天津、青島、済南、瀋陽、大連のような都市の観光波及と集積の範囲は狭くて、地域観光の規模化、産業化、集積化の発展に有効的ではない。

##### 4.2 環渤海地域の観光クラスター形成の条件分析

###### 4.2.1 環渤海地域環境優位の強さ

観光資源は移転は不可能であるが、地域環境優位は好みの異なる観光消費者と観光企業の利益主体に空間移動を通じて、観光目的地へ集積させることができる。環渤海地域の地域優勢と地縁優位、資源賦与と経済発展水準及び政策環境などの強い吸引力は、地域観光経済の効果的な運営と整合協力の重要な原動力になる。

地域的優位から言えば、環渤海地域は中国北方地域が日本、韓国、朝鮮など北東アジア諸国と国際交流との協力の重要な門戸であるため、集客市場が大きく、交通ネットワークも密集している。北京市、天津市、河北省を中心に、山東半島、遼東半島を翼にした水平的交通ネットワークと、ハルビン⇄大連、北京⇄上海、北京⇄瀋陽といった縦向の交通動脈と、大連港、天津港、青島港など沿海交通ネットワークが高度に集積されている。

経済的優位から言えば、環渤海地域は中国の三大経済成長極だと言われており、北東アジア地域国際経済協力のフロンティアでもあるので、とても強い経済的集積、波及、先導の役割を果たしている。2009年、環渤海地域における省（遼寧省、山東省、山西省、河北省）、自治区（内モンゴル自治区）、直轄市（北京市、天津市）の国民総生産（GDP）は102356億元であり、全国のGDPの約31%を占めており、一人当たりのGDPも全国の平均水準を上回ったほか、第二次産業、第三次産業が経済成長の寄与率に47.41%、40.09%にもなり、観光総収

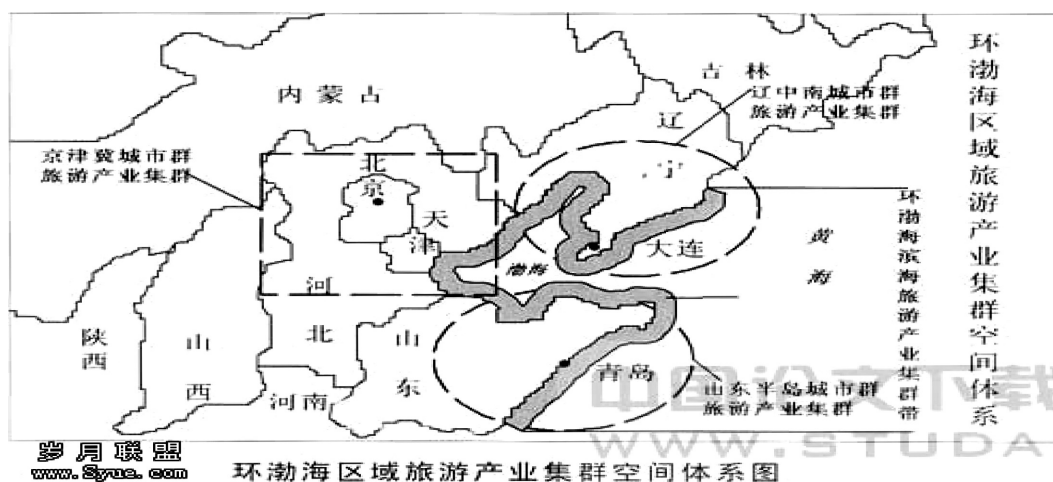
入が4666.75億元に達し、環渤海地域GDPの8.4%であり、全国観光収入の60%を占めている<sup>15</sup>。

資源的優位から言えば、環渤海地域は中国の三分の一にも及ぶ長い海岸線を持つため、変化に富んだ地形、古代春秋戦国時代と関東地域文化景観及び現代都市景観を兼備しており、陸地と海域景観とは相まっている。とりわけ数多くの名所旧跡、保護区、文化名城、著名な観光都市が集まり、中国における世界遺産の三分の二（故宮博物院、周口店北京猿人遺跡、泰山、万里の長城という4ヶ所）を占めているほか、大連金石灘、青島石老人、北京華夏民族村など国家レベルの観光リゾート及び北京、天津、青島、済南、威海、煙台、大連、瀋陽など中国における観光都市を持っている。

#### 4.2.2 強い地域専門化分業と協力能力

観光産業の総合性が強く、専門化が進み、相互間の企業の支援、情報の交換、経済協調によって、協力の効果を生み出し、各種の生産要素を集積地域内にスムーズに移動させる。観光産業の産業チェーンが大きい、関連度も大きいため、ある機能を実現するには、数多くの関係補助産業の協力の支えを必要とする。旅行社、ホテルはネットワークを通じて、便利且つ素早い観光サービスシステムを作り出す。現在、環渤海地域観光インフラ整備と受け入れ能力は日増しに完備され、強まりつつある。

図2 環渤海地域観光産業クラスター空間システム図



出典：歲月連盟 www.syue.com より

環渤海地域では、強い専門化分業協力和一体化発展の基礎を備えており、京津冀都市群は環渤海地域における一番大きな、最も強い経済成長中心であり、華北地域と西北地域に強い放射的、先導的機能を持っている。山東半島都市群では、東に韓国と日本を望み、南へは長江デルタ地域まで、北へは遼寧中南部と繋がり、西へは北京、天津を向こう側に見る。遼寧中南部都市群では北東アジアの分業と協用に積極的に参与することができる。このために、市場メカニズムの調節と統一企画を前提に、合理的な分業意識を打ち立てて、三大都市群の専門化分業と協力能力を十分に生かし、合理的な配置、明確な分業、相互補完、鮮明な特色、協調的な発展の観光産業クラスター配置をなす。

#### 4.2.3 集積地域性と次元性のシステム構築

産業クラスターの空間構造は、地域観光産業要素の空間分布と相互作用であり、観光流の運

動、観光資源の組み合わせ効果、観光地の通達性及び観光市場イメージの位置づけなどの地域差異によってクラスターの空間構築が決定される。空間から見れば、環渤海観光圏全体では、三つの観光ブロック、五つの観光センターに分けられる。遼東ブロックでは、瀋陽を中心にした遼中観光区と、大連を中心にした遼南観光区、京津ブロックでは、北京、天津を中心にした京津観光区、胶東ブロックでは、済南を中心にした済南観光区と、青島を中心にした青島観光区。三大ブロックと五大センターでは、更に数多くの小さなブロックと観光区からなっており、一定の次元構造を持っている。このため、環渤海地域では、すでに観光中心都市を主体に、周辺地域の協力と構造明晰な観光地域システムが先導されている。

要するに、環渤海地域の環境優位、専門化の分業協力、観光産業集積の地域性と競争力は、環渤海観光要素に厳格な特色のある分業及び相互補完を形成させて、安定的な、長期的な、非特定契約の集積を維持している。

## 5. 観光産業クラスターに基づいた環渤海地域観光整合開発と協力モデル

### 5.1 政策制度整合と協力モデル

地域観光発展のガイドラインを計画、実施して、環渤海地域観光の協調発展と合理的なコントロールを先導する。地域観光機能区画の策定を通じて、各種の観光機能地域を定めて、地域観光開発機能と空間システムを確定し、重点的に、段階的に開発に取り組んで、行政、市場など強い手段を支えに保障する<sup>16</sup>。関係の省、自治区、直轄市は地域観光機能を正確に定めるべきである。即ち、北京はオリンピック開催の優位を生かし、天津は国際港に依託し、河北省は北京、天津の観光産業とのドッキングを強化し、山東省は便利な対外開放通路を提供し、遼寧省は地域内の観光協力を強化し、山西省は地域観光産業発展のためのエネルギーを提供し、内モンゴル自治区は約 6818 万ヘクタールの草原天然牧場に依託して、地域生態観光資源を維持すべきである。

地域観光行政組織を作り、地域協調管理を強化する。環渤海地域行政地域では次元が多くあり、分割が細かすぎて、都市群における各都市の所属関係も異なり、一体化の実現が困難なので、都市間の協調に数多くのネックとなり、地域及び資源の自由流動と有機的な融合を阻害することになる。このため、環渤海地域の観光行政組織を作り、開放政策と政府間の協調及び整合を強化し、有効的に優位地域と非優位地域の資金、技術、情報など観光要素を配置し、観光競争優位を整合する。

### 5.2 観光要素整合と協力モデル

#### 5.2.1 地域観光資源の整合と協力

人文的観光資源の整合。遼寧の「古代文明ルーツ」-天津の「古城文化」-北京の「華夏文明」-河北涿鹿の「三祖文化と三国文化」-山東の「山水聖人と齋魯文化」-山西の「大同古代建築と五台山文化」-内モンゴルの「赤峰遼文化と古代人類文化」などの観光内容が挙げられる。

観光レジャー資源の整合。遼寧の鞍山千山、鳳凰山、医巫閭山、鴨緑江、本溪水洞、青山溝風景名勝区-天津盤山-河北太行景色、承德森林草原、崆山白雲洞-北京八達嶺-十三陵と石花洞風景名勝区-山東泰山、青島嶗山、博山、青州風景名勝区-山西黄河風景と汾源山岳風景



ー内モンゴル扎蘭屯（ザラントン）草原風光などが挙げられる。

リゾート観光資源の整合。海岸リゾートの中では、大連金石灘、旅順口海岸－天津海岸－河北承德、北戴河－青島石老人がある。温泉リゾートには天津東麗湖－河北白洋淀－内モンゴル赤峰温泉観光－青島即墨温泉観光などが挙げられる。

### 5.2.2 観光産業要素の整合と協力

環渤海地域観光集積規模が優位であり、観光集積のシステム作りを通じて、段階的に観光核心産業及び関係産業要旨の配置を完備し、観光産業内部間の連携を強化し、今後、重点的にハイグレードホテル企業グループと国際旅行社企業集団の創立を加速し、地域観光化システムの建設と協力、地域内の高速道路、高速鉄道、地下鉄を主とした高速軌道交通システムの接続を合理的に配置し、計画し、主な集客国と重点観光都市への航路、定期便を増やし、観光公共サービスシステムを作り、整備し、社会公益サービス機能のある観光客集散センター、ツーリズムインフォメーションセンター、観光客救援センターづくりに取り組む<sup>17</sup>。

### 5.2.3 市場ネットワーク整合と協力モデル

観光市場を規範し、地域の制限、体制の障害を取り除き、統一的な、開放的な、秩序ある観光市場体制を形成することは、環渤海地域観光協力にとっても重要なものである。観光市場協力は主に下記のような内容が含まれる。

観光コースの協力。即ち環渤海七つの省・自治区・直轄市における各々の散在の観光コースを整合し、鮮明な特色、充実した内容、優れた海岸観光精選コース（海岸リゾート、港観光、海洋人文観光、海岸生態観光）、都市群と近代主題コース、オリンピック観光コース、コンベンションとイベント観光コースを作り出して、京津冀地域を貫通し、京津滬（上海）を繋ぎ、中日韓三カ国を結び、環渤海地域全体に及ぶ最適な観光コースに取り組む。

市場銘柄の整合。地理的な、行政的な境界を跨り、乗り越えて、地方特色を旗印とし、広告宣伝力を集約し、特に北京2008年オリンピック大会の開催、2008年オリンピック青島会場のヨット・レース（競技）を契機に、環渤海地域のオリンピックの競技イメージをクロースアップさせる。

観光市場主体の育成と発展。実力の豊富で、競争力の強い総合性と専門化の大型観光企業と企業グループを育成し、ハイグレードホテルと旅行社を、集団化、銘柄化、ネットワーク化への先導と後押しをすべきである。

### 5.2.4 地域空間整合と協力モデル

観光資源地域差異性且つ分布の不均衡の特色を踏まえて、隣接の省、自治区の観光資源密集団と観光産業密集帯を基礎に、「三つの核心、三つのゾーン、三つの産業ブロック」という地域観光産業集積システムを構築する。核心の確定を通じて、都市群、海岸観光産業ブロックを先導し、観光産業集積地域化の整合と協力モデルを構築する。即ち、大連市、北京市、青島市を中心に、京津冀、遼中南、山東半島という三つのゾーンクラスター協力発展を最優先させ、環渤海海岸観光集積産業ブロックを作り上げ、環渤海の省、自治区、直轄市地域観光産業集積空間システムを構築し、観光産業空間集積形態を「スポット」成長極集積段階から「スポット－軸」成長極、産業ブロック及び地域集積拡散への転換を推し進める。

## 5.3 三大観光核心と産業クラスターの育成

大連を中心とした「北方香港」、「ロマンチックな都」といったイメージ・アップさせ、観光

リゾートレジャー商品の開発を強化し、遼中南都市群観光産業クラスターの発展を先導する。天津市、河北省と連合し、「海、陸、山」を兼備した、文化的な、豊富な、オリエンタルな多機能観光ブロックを開発し、京津冀地域観光産業クラスターの発展を先導する。青島を中心とした、山海の景色、海岸近代多国籍建築と都市人文及び2008年オリンピックヨット競技によって、海岸リゾート、観光、コンベンション専門観光資源の開発を目立たせ、山東半島都市群の観光産業クラスターの発展を先導する。

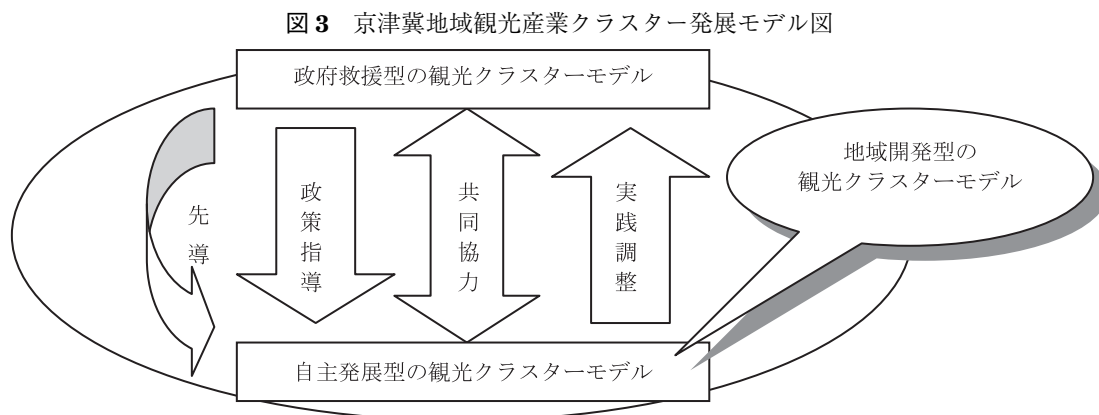
#### 5.4 海岸観光クラスター産業ブロック作り

重点的に2008年オリンピック大会青島会場のヨット競技の機会を生かし、大連の傅家荘と金石灘海水浴場－河北の秦皇島、北戴河と南戴河海水浴場－青島の第一、第二、第三、第六海水浴場と石老人、金沙灘海水浴場を整合、開発し、水上レジャー観光商品を開発していく。大連、秦皇島、青島を、重点リゾート観光都市として区分する。煙台、威海、日照など副次的なリゾート観光都市では、海岸リゾート観光商品を共同で開発していく。海岸風景観光資源を整合して、大連－青島山海風光と都市景観観光、遼河デルタ湿地－天津古代海岸と湿地－黄河デルタ湿地生態観光、旅順口－承德－興城古城、錦州、綏中海岸歴史遺跡観光を開発、発展させる。

### 6. 京津冀地域観光産業クラスターモデル選択

北京市、天津市、河北省からなる京津冀地域内における行政区画が多く、細分化されて、都市群における各都市の所属関係が異なるため、一体化されにくく、都市間の協力発展に多くの制約要素をもたらす。そのため、三地域の地方政府の支援による産業クラスター発展モデルは京津冀地域観光産業クラスターの必然的な選択である。そして、観光産業では発展メカニズムとクラスターができたなら、政府は機能を転換して、「サービス」の役割を果たすべきで、行政的な干渉を減らして、観光産業クラスターのためによい法律と政策環境づくりを整備し、京津冀地域の観光産業に自主的に、適応的に発展させ、効果的に競争力を向上させ、スムーズに産業クラスターのグレートアップができるようにすべきである<sup>18</sup>。

そのため、筆者は政府指導と産業自主発展が相まって発展する方法を取るべきだと考えられる。本論ではこの提案を下記の図3に示してみたい。



出典：筆者作成。

## 6.1 京津冀地域観光産業協力発展の現状分析と対策提案

本論ではSWOT分析法に基づき、観光産業クラスター構成の視点から、京津冀地域観光産業クラスターの問題へアプローチし、京津冀地域観光産業協力発展の対策を提案してみたい。

### 6.1.1 京津冀地域観光産業協力発展の現状

1985年から京津冀地域観光協力の幕開けとなり、三地域間の協力が続いている。1987年、北京観光学会の発起により、天津観光学会、河北観光学会と連合し、北京では第一回「京津冀地域観光協力セミナー」が開催された。その後、数多くの省、市が参加して、「北方十省市観光親善会」に変わって、今日の毎年一回の「北方観光交易会」までに至った。2003年9月19日、京津冀三地域の観光局は「京津冀地域観光キャンペーン週間」を行なった。2007年4月、三地域では「京津冀地域観光協力協議書」に調印した。この協議により、地域観光協力会議制度を設立し、共同で観光キャンペーンスローガンを計画、宣伝して、共同で三地域の幾つかの精選観光コースまたは観光商品を開発し、共同で連合システムを作り、救援応急システムを完備して、観光市場を規範、整合する<sup>19</sup>という。

河北省では、2008年より正式に「河北省環京津観光レジャー産業エリア計画」<sup>20</sup>を実施して、相次いで、「河北観光の京津への進出」、「京津セルフドライブで河北を遊ぼう」などのキャンペーン活動を組織、展開し、河北省観光部署と企業を組織し、北京の100のコミュニティに入り、プロモーションを展開した。河北省における各市も次々と各種の措置を取り、京津地域との観光協力を加速していった。

2009年1月23日より、京津冀地域の観光スポットでは共同で観光年間入場券を発売し、京津両地域の双方向の観光を加速するため、両市の観光部門が共同で京津塘高速道路通行料の補助方案を立案して、その年の7月1日より「観光グリーンチャンネル」を開通し、相手都市の旅行社の観光バスに合計100万元の高速道路通行料を免除することとなった<sup>21</sup>。

京津冀地域は環渤海地域の経済的な核心として、特に文化産業面においては更なる緊密な地域協力の将来性が見られる。文化産業はある程度まで発展したら、既存の産業種類を超えた、より広範な、より高次元な産業へと発展し、次第に創意的な、先導的な文化創意産業の段階へ入るようになると、筆者は考える。

そのなか、北京の文化産業がいち早く、2006年に文化創意産業が重点的に発展する産業だと位置づけられた。また、第一回中国北京国際文化創意産業博覧会が開催されたほか、文化創意産業の分類基準も頒布された。また2007年には「第十一の五ヵ年計画」としての文化創意産業発展計画が打ち出された。一方、天津でも文化創意産業発展計画と、それに相応する政策が積極的に検討、制定されたうえ、文化創意産業団地と産業基地づくりも検討、設立された。それに対して、河北省の文化産業の発展の歩みは立ち遅れていたが、2006年に河北省では初めて文化創意産業を、国民経済と社会発展の主導産業システムに組み入れた。また2007年には「文化産業発展第十一回五ヵ年計画綱要」が完成されて、文化産業資金の投資誘致の効果は著しく、文化観光、アニメーションゲーム分野で大プロジェクトが導入された。と同時に、ここ数年以来、北京と河北、天津濱海新区と河北の滄州、廊坊、唐山など都市間との協力は次第にその範囲が広がり、共同で観光文化産業の発展が促進されつつある。

## 6.1.2 「SWOT 法」による京津冀地域観光産業共同発展の分析

表1 SWOT 法による京津冀地域観光産業共同発展の分析

<p><b>強み (Strength)</b></p> <p>1. 資源特化          京津冀地域の観光資源の種類が揃っており、六種類の観光資源（地文景観、水域風光、生物景観、建築類、レジャーリフレッシュ、ショッピング）が何れもある。資源のレベルが高く、資源そのものから見ても、この地域の観光資源の品位が高く、一番高いとする A クラスの資源が数多くある。          有名な観光資源の中にはすでにユネスコ（国際連合教育科学文化機関）に世界文化遺産として登録された清東陵、高い地質科学価値のある薊県の古代の名人故居などが数多くある。</p> <p>2. 集客優位          現在、中国における三大国内地域観光集客市場がある。即ち広州、深圳を中心にした珠江デルタ集客市場、上海、南京、杭州を核にした長江デルタ集客市場、北京、天津を中心にした環渤海集客市場である。          そのなか、北京は中国における最大な集客都市でもあり同時に、最大の観光目的地でもある。天津にも相当な集客量がある。</p> <p>3. 交通の優位          ある観光目的地への観光客の多少は資源の優劣と集客市場の遠近によって決定されるほか、交通アクセスの数、ランクとスムーズさにもよる。北京首都国際空港、京津塘高速道路、天津濱海国際空港、天津港などは観光目的地として交通面の便利さを提供する。</p>	<p><b>弱み (Weakness)</b>          京津冀地域の観光資源が揃っているが、北京を除いて、天津市と河北省では特徴のある、実力の強い観光商品が欠けている。そのほか、「影」による影響も天津市と河北省観光発展の立ち遅れの原因の一つである。観光地の吸引力の大きさがかけ離れすぎる場合、吸引力の強い観光地が吸引力の弱い観光地を「影」の下に蒙らせて、市場を失わせる<sup>22</sup>。このような空間競争関係が「影構造」といわれる。</p> <p><b>機会 (Opportunity)</b>          中国は経済周期の上昇段階にあり、京津冀地域では持続的な発展の勢いを保っている。観光業が直面しているマクロな経済環境には有利である<sup>23</sup>。2010年中国国内総生産の一人あたりは4000米ドルを超えており、京津冀地域のそれは遥かに全国の平均水準を上回っており、国民消費構造と生活質に対する追求が歴史的な変化が現れ、観光消費のニーズもそれに伴っていち早く成長しつつある<sup>24</sup>。</p> <p><b>脅威 (Threat)</b>          情報革命の波とハイテクの広範な応用は京津冀地域観光産業の知識構造、技術装備及び運営モデルに挑戦を、観光方式の個性化、多様化、精細化、快適化は天津市と河北省のような、依然とした粗放型の観光商品と接客方式に挑戦を、各地では競って観光業を発展して、観光客市場を争い、京津冀地域の総合吸引力と競争力に全面的な挑戦を訴えた。</p>
--	---

出典：筆者作成。

## 6.2 観光産業クラスターに基づいた京津冀地域観光産業協力発展モデル

### 6.2.1 政策制度の整合と協力

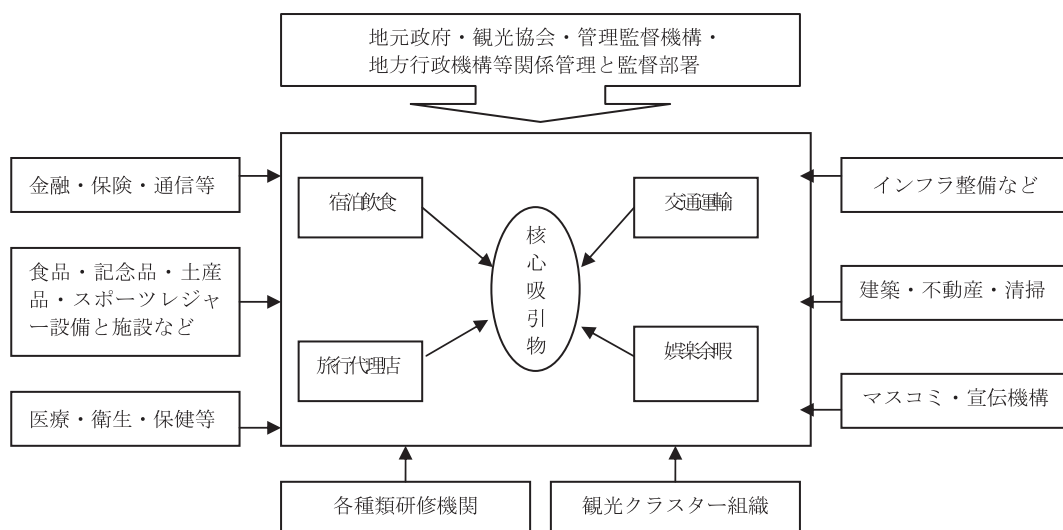
まずは、地域観光発展計画を実施し、地域観光機能区画の指定を通じて、各種の観光機能区を定めて、地域観光開発機能と空間体系を確定し、重点的に、段階的に開発する。

次は、地域観光行政組織を作り、開放政策と政府間の協調と潜在力の整合を強化し、優位地域と非優位地域の資金、技術、情報など観光要素を効果的に配置し、観光競争優位を整合する<sup>25</sup>。

### 6.2.2 観光産業要素の整合と協力の強化

地域内の観光核心産業の企業を中心として、観光関係産業企業及び配置施設とサービスの加盟を連合し、その他の産業クラスターと連携する。

図4 観光企業クラスターの構成図



出典：筆者が先行研究と文献26を参考にしたうえ作成した。

### 6.2.3 市場ネットワークの整合と協力

観光市場を整合し、地域制限、体制の障害を越えて、統一的な、開放的な、秩序ある観光市場システムを構築して、観光コース上の協力を強化し、市場銘柄を強力に整合し、実力のある、競争力の強い総合的、専門的な大型観光企業と企業グループを育成し、ハイクラスのホテルと旅行社を、集団化、ブランド化、ネットワーク化へと導くべきである。

### 6.2.4 地域空間整合と協力

観光資源地域差異性の分布不均衡の特徴により、近隣にある観光資源密集圏と観光産業密集エリアをもとに、地域観光産業クラスター地域システムを構築する。核心にあたる観光地域、重点スポットグループ、海岸観光産業エリアの確定を通じて、観光産業クラスター地域化整合と強力モデルを構築し、京津冀地域観光クラスター産業エリアづくりに取り組む。

### 6.3 京津冀地域観光産業協力発展の対策提案

本論では、数多くの先行研究<sup>27, 28, 29, 30</sup>を参考にし、京津冀地域観光産業協力の現在の元で、実情を踏まえて、その他の地域の既存の経験に鑑みて、京津冀地域観光産業の発展のための提案を以下のようにしてみたい。

第一は、京津冀地域自身の観光資源を深く分析し、特色のある観光産業商品を開発し、現在の観光市場の新趨勢、観光目的地への観光客の新しいニーズを踏まえて、三地域、特に天津市、河北省の観光資源を深く選別、類別し、この地域の比較優位を正しく見出し、差別化のある観光商品を販売する。

第二は、地域全体の営業戦略を立て、効果的な営業整合を行なう。まずは、何を販売するのか、異なるタイプの観光客のニーズを踏まえて、相応しい営業の戦略を立てる。次は、営業の方法の選択である。長江デルタ、珠江デルタの方法を参考に、国内外の観光展示及び大型国際的イベントの際に、共同で出展するのは、大変効果的である。

第三は、政府間の長期的、有効的な協力体制を作り、企業間協力の積極性を引き出す。三地域観光協力協議の調印は協力の第一歩に過ぎず、実際の中、やることが多く、専門の機構、係

員、担当者のコーディネートとマネジメントが必要である。そのため、京津冀地域観光協力会議制度が実施するにあたって、日常的にコーディネートとマネジメント部門を設け、適時に三地域の観光協力の際の苦情をフィードバックし、処理し、よりよき協力を更に行なうための対策を提案する。

## 7. 終わりに

本論は産業クラスター論の視点に基づき、環渤海地域及び京津冀地域の観光産業発展現状を踏まえて、協力発展の可能性と必要性を検討してきた。中国観光産業クラスターモデルのもとで、マクロ的な、巨視的な視点から観光産業クラスターで環渤海地域特に京津冀地域観光産業発展モデルを分析し提案してみた。

筆者の研究限界と到達点及び枚数に制限もあって、もっと深く、細かく分析と研究ができないままになっているが、今後、ミクロ的な、多視点と多次元から本課題へ引き続きアプローチしていきたい。

備考：本論で引用した出典内容の一部は、第一著者の李剛が下記の中国語の参考文献から日本語に翻訳したものである。

### 参考文献

- 1) 産業クラスター〔ニッポニカプラス〕(小学館)(執筆者：編集部) [EB/OL] <http://100.yahoo.co.jp/detail/>  
迈克尔·波特 [美], 李明轩, 邱如美等译. 国家竞争优势 [M]. 北京: 华夏出版社, 2002年. P124。
- 2) 刘尚华. 论我国工业产业集群化发展趋势 [J]. 工会论坛 - 山东省工会管理干部学院学报, 2007年第13卷第1期: P82。
- 3) 凌嵩. 集群化——中国开发区产业发展的新方向 [J]. 港口经济, 2004年第1期: P51。
- 4) 倪鹏飞. 中国城市竞争力报告 [M]. 北京: 社会文献出版社, 2005年第5期: P2。
- 5) 邓冰, 俞曦, 吴必虎. 旅游产业的集聚及其影响因素的初探 [J]. 桂林旅游高等专科学校学报, 2004年第6期: P53。
- 6) 尹贻梅, 陆玉麟, 刘志高. 旅游企业集群 - 提升目的地竞争力新的战略模式 [J]. 福建论坛, 2004年第8期: P22。
- 7) 谢春山, 李诚固. 试论新时期旅游产业的特征与功能定位 [J]. 财经问题研究, 2005年第8期: P23。
- 8) 王起静. 转型时期我国旅游产业链的构建 [J]. 山西财经大学学报, 2005年第5期: P18。
- 9) 张辉. 产业集群竞争力的内在经济机理 [J]. 中国软科学, 2003年第1期: P35。
- 10) 何玉荣, 卢剑鸿. 旅游产业集群 - 提升黄山市旅游竞争力的有效途径 [J]. 黄山学院学报, 2007年第1期: P53-56。
- 11) 尹贻梅, 陆玉麟, 邓祖涛. 国内旅游空间结构研究述评 [J]. 旅游科学, 2004年第12期: P45。
- 12) 潘文达. 环渤海区域经济发展战略初探 [J]. 学习与探索, 2005年第3期: P38。
- 13) 陈才. 环渤海旅游圈的形成与发展 [J]. 人文地理, 1999年第2期: P28。
- 14) 袁莉, 刘翰林. 聚集与旅游产业群的培育 [J]. 经济问题探索, 2004年第1期: pp117-118。
- 15) <http://forum.home.news.cn/thread/78430669/1.htm>
- 16) 邓念梅, 吴南. 建设三峡区域旅游产业集群的思考 [J]. 特区经济, 2007年第221卷第6期: P172。

- 17) 袁莉, 田定湘, 刘艳. 旅游产业的聚集效应分析 [J]. 湖南社会科学, 2003年第3期: P117。
- 18) 麻学锋. 旅游业产业集群的创新研究 [J]. 市场论坛, 2004年第11期: P63。
- 19) 庄军. 旅游产业集群研究 [D]. 华中师范大学, 硕士论文, 2005年: pp24-25。
- 20) 河北省环京津休闲旅游产业带发展规划. (2008-2020) [EB/OL]. 豆丁网, 2010年8月6日, <http://www.docin.com/p-69079762.html>
- 21) 张旭. 京津之间开通“旅游绿色通道” [EB/OL]. 人民网 天津视窗, 2009年7月1日, <http://www.022net.com/2009/7-1/426257112867913.html>
- 22) 杜宇. 基于产业集群理论的山西省旅游产业发展研究 [D]. 硕士论文, 山西大学, 2006年: pp53-54。
- 23) 白翠玲, 李占乔等. 旅游经济—京津冀区域旅游发展中政府合作机制研究 [J]. 商业时代, 2008年第18期: P93。
- 24) 中国2010年各省区市GDP排行(包括香港和台湾) [EB/OL]. 2011年3月22日, <http://bbs.city.tianya.cn/tianyacity/content/333/1/87794.shtml>
- 25) 张广海, 刘佳. 环渤海地区旅游产业集群构建与区域整合研究 [J]. 改革与战略, 2007年第2期: P82。
- 26) 尹贻梅, 陆玉麟, 刘志高. 旅游企业集群 - 提升目的地竞争力新的战略模式 [J]. 福建论坛, 2004年第8期: P24。
- 27) 孟广文, 王洪玲等. 京津冀文化产业发展与合作研究 [A]. 天津市社会科学界联合会. 2010京津冀区域协作论坛论文集 [C]. 天津: 2010年. pp269-275。
- 28) 马志强. 论我国城市群的发展趋势及存在的问题 [J]. 商业经济与管理, 2003年第7期: pp18-20。
- 29) 李剛「北東アジアにおける国際観光協力の現状と展望」、『観光研究論集第8号』(大阪観光大学観光学研究所、2009年11月)第43-51頁。
- 30) 李剛、汪爽、喬璐「京津冀地域の観光業協力と発展に関する研究—北京市・天津市・河北省を中心にした統合モデルづくり—」、『観光研究論集第9号』(大阪観光大学観光学研究所、2010年11月)第71-83頁。